

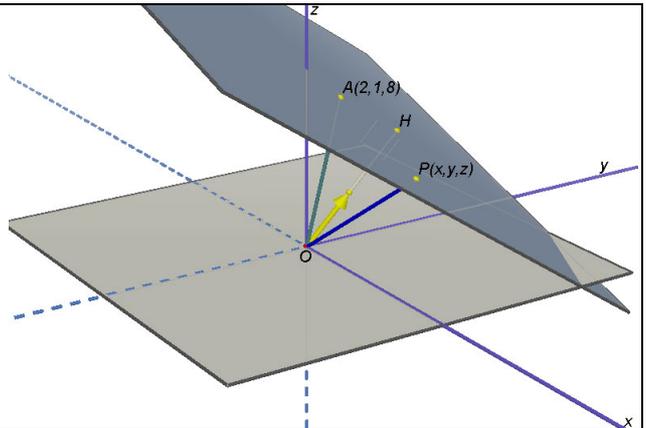
5. 平面の方程式と内積, 点と平面の距離の公式

例 1.

$A(2,1,8)$ を通り, $\vec{n} = (1,2,3)$ と直交する平面を π ,
 O から π に下ろした垂線の足を H とする.

(1) π 上の任意の点を $P(x,y,z)$ とするとき, x,y,z
 の間の関係式を求めよ.

(2) OH の長さを求めよ.

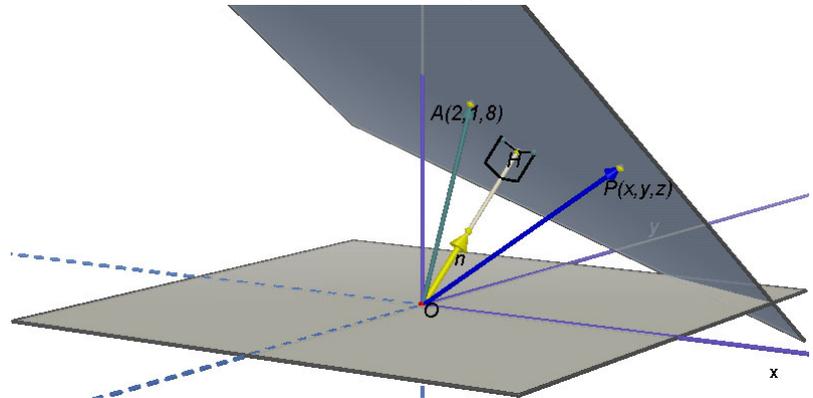


(1) 直線 OH を「スクリーン」として, 内積の正射影としての意味を使うと,

$$\begin{cases} \vec{n} \cdot \overline{OP} = OH \times |\vec{n}| \dots \textcircled{1} \\ \vec{n} \cdot \overline{OA} = OH \times |\vec{n}| \end{cases}$$

ゆえに,

$$\vec{n} \cdot \overline{OP} = \vec{n} \cdot \overline{OA} \dots \textcircled{2}$$



②を成分で表示すると,

$$\begin{pmatrix} 1 \\ 2 \\ 3 \end{pmatrix} \cdot \begin{pmatrix} x \\ y \\ z \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} 1 \\ 2 \\ 3 \end{pmatrix} \cdot \begin{pmatrix} 2 \\ 1 \\ 8 \end{pmatrix} \iff x + 2y + 3z = 28 \dots \textcircled{3} \quad \dots (ans)$$

(2) ③は, 「 $\vec{n} \cdot \overline{OP} = 28$ (一定)」を表しています. よって①より,

$$OH = \frac{\vec{n} \cdot \overline{OP}}{|\vec{n}|} = \frac{28}{\sqrt{14}} = 2\sqrt{14} \quad \dots (ans)$$

【注】 ②は「 \overline{OP} と \overline{OA} の OH の上への正射影は同じ!」を表しています. なお②は,

$$\vec{n} \perp \overline{AP} \iff \vec{n} \cdot \overline{AP} = 0 \iff \vec{n} \cdot (\overline{OP} - \overline{OA}) = 0 \iff \vec{n} \cdot \overline{OP} = \vec{n} \cdot \overline{OA}$$

としても得られます. 正射影が分かっても理解できるので, 教科書はこちらになっています.

5-1. 平面の方程式, 原点と平面の距離の公式

一般に, $\vec{n} = \begin{pmatrix} a \\ b \\ c \end{pmatrix}$ に垂直で, 点 $A(x_0, y_0, z_0)$ を通る平面上の点を $P(x, y, z)$ とすると,

\vec{OP} と \vec{OA} の \vec{n} 上への正射影は同じだから,

$$\vec{n} \cdot \vec{OP} = \vec{n} \cdot \vec{OA}$$

成分表示では,

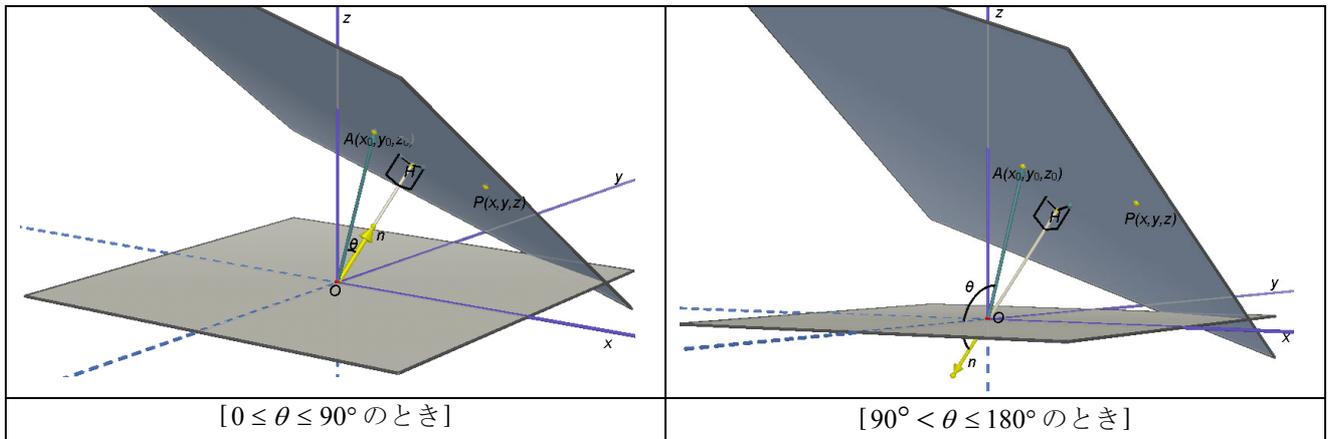
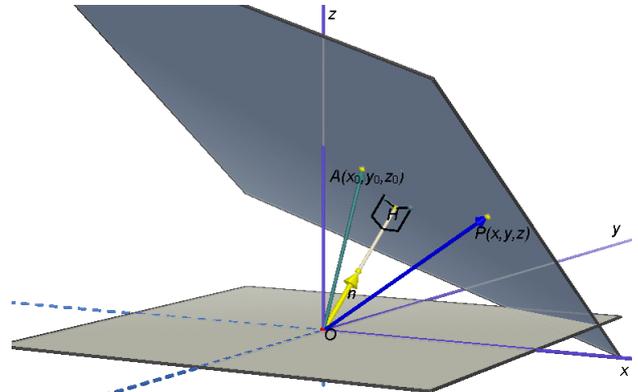
$$ax + by + cz = ax_0 + by_0 + cz_0$$

すなわち,

$$A(x_0, y_0, z_0) \text{ を通り, } \vec{n} = (a, b, c) \text{ に垂直な平面 } \pi \text{ 上の点を } P(x, y, z) \text{ とすると,}$$

$$\vec{AP} \perp \vec{n} \iff (\vec{OP} - \vec{OA}) \cdot \vec{n} = 0 \iff \vec{n} \cdot \vec{OP} = \vec{n} \cdot \vec{OA} \iff ax + by + cz = ax_0 + by_0 + cz_0$$

このように, $ax + by + cz = d$ は, $\vec{n} = \begin{pmatrix} a \\ b \\ c \end{pmatrix}$ に垂直な平面を表します.



また O から平面 π に下ろした垂線の足を H , \vec{n} と \vec{OA} のなす角を θ とすると, 「正射影」の考え方から

$$\begin{cases} 0^\circ \leq \theta \leq 90^\circ \text{ のとき, } \vec{n} \cdot \vec{OA} = |\vec{n}| \times OH \\ 90^\circ < \theta \leq 180^\circ \text{ のとき, } \vec{n} \cdot \vec{OA} = -|\vec{n}| \times OH \end{cases}$$

「 $\vec{n} \cdot \vec{OA} = ax_0 + by_0 + cz_0 = -d$ 」とおくと, 平面 π の式は, 「 $\pi: ax + by + cz + d = 0$ 」.

よって, 「 $\pi: ax + by + cz + d = 0$ 」と原点との距離は

$$OH = \frac{|\vec{n} \cdot \vec{OA}|}{|\vec{n}|} = \frac{|ax_0 + by_0 + cz_0|}{|\vec{n}|} = \frac{|d|}{|\vec{n}|}$$

5-2. 点と平面の距離(一般の場合)

例2

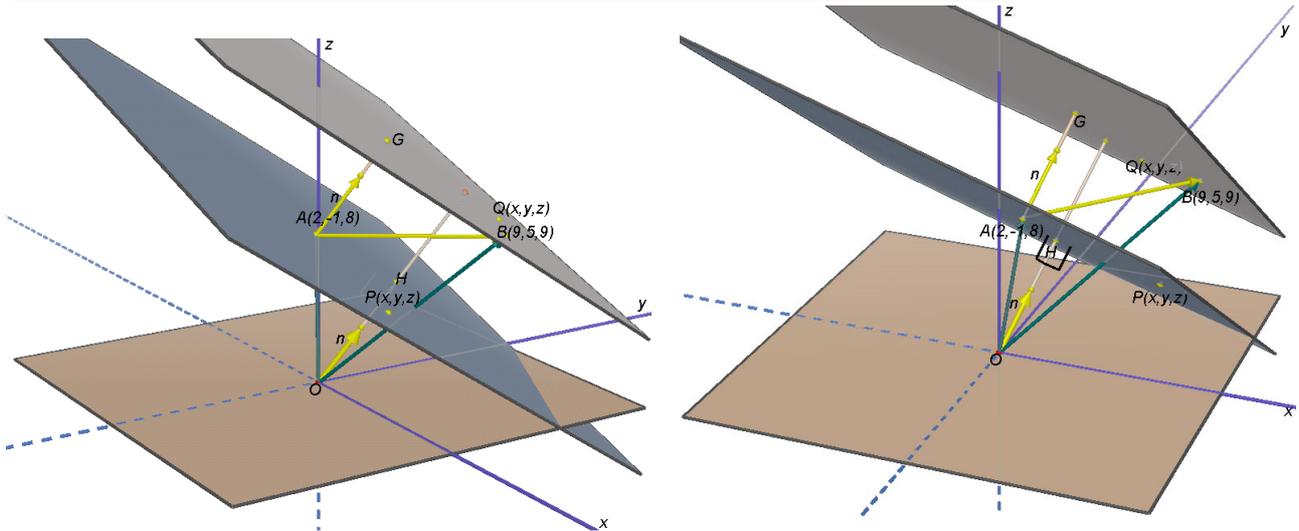
A (2, -1, 8) を通り $\vec{n} = (1, 2, 3)$ と直交する平面を π_1 ,

B (9, 5, 9) を通り \vec{n} と直交する平面を π_2 とする.

(1) π_1 上の任意の点を P(x, y, z) とするとき, x, y, z の間の関係式を求めよ.

(2) π_2 上の任意の点を Q(x, y, z) とするとき, x, y, z の間の関係式を求めよ.

(3) π_1 と π_2 の距離 (図の AG) を求めよ.



(1) 「 $\vec{n} \cdot \overrightarrow{OP} = \vec{n} \cdot \overrightarrow{OA}$ 」だから

$$\begin{pmatrix} 1 \\ 2 \\ 3 \end{pmatrix} \cdot \begin{pmatrix} x \\ y \\ z \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} 1 \\ 2 \\ 3 \end{pmatrix} \cdot \begin{pmatrix} 2 \\ -1 \\ 8 \end{pmatrix} \iff x + 2y + 3z = 24 \dots \textcircled{1}$$

(2) 「 $\vec{n} \cdot \overrightarrow{OQ} = \vec{n} \cdot \overrightarrow{OB}$ 」だから

$$\begin{pmatrix} 1 \\ 2 \\ 3 \end{pmatrix} \cdot \begin{pmatrix} x \\ y \\ z \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} 1 \\ 2 \\ 3 \end{pmatrix} \cdot \begin{pmatrix} 9 \\ 5 \\ 9 \end{pmatrix} \iff x + 2y + 3z = 46 \dots \textcircled{2}$$

(3) \vec{n} と \overrightarrow{AB} のなす角は鋭角だから, (\vec{n} と \overrightarrow{AB} のなす角が鈍角のときは $\vec{n} \cdot \overrightarrow{AB} = -|\vec{n}| \times AG$ です.)

$$\vec{n} \cdot \overrightarrow{AB} = |\vec{n}| \times AG$$

ゆえに,

$$AG = \frac{\vec{n} \cdot \overrightarrow{AB}}{|\vec{n}|} = \frac{\vec{n} \cdot (\overrightarrow{OB} - \overrightarrow{OA})}{|\vec{n}|} = \frac{\vec{n} \cdot \overrightarrow{OB} - \vec{n} \cdot \overrightarrow{OA}}{|\vec{n}|} \dots \textcircled{3}$$

①より「 $\vec{n} \cdot \overrightarrow{OA} = 24$ 」, ②より「 $\vec{n} \cdot \overrightarrow{OB} = 46$ 」だから, ③へ代入して,

$$AG = \frac{46 - 24}{|\vec{n}|} = \frac{22}{\sqrt{14}} \dots (\text{ans})$$

5-3. 点と平面の距離の公式(一般の場合)

\vec{n} と \overline{AB} のなす角は鋭角とは限らないので、③の式は、一般には次のようになります。

$$\vec{n} \cdot \overline{AB} = \begin{cases} |\vec{n}| \times AG & (0^\circ \leq \theta \leq 90^\circ \text{ のとき}) \\ -|\vec{n}| \times AG & (90^\circ < \theta \leq 180^\circ \text{ のとき}) \end{cases}, \quad (\text{但し, } \theta \text{ は } \vec{n} \text{ と } \overline{AB} \text{ のなす角})$$

故に、一般に、

互いに平行な2平面「 $ax+by+cz=d_1$ 」と「 $ax+by+cz=d_2$ 」との距離は、

$$h = \frac{|d_1 - d_2|}{|\vec{n}|} \dots (*)$$

【注】 特に、原点を通る平面「 $ax+by+cz=0$ 」と「 $ax+by+cz=d$ 」との距離は「 $h = \frac{|d|}{|\vec{n}|}$ 」となります。

これを使って 点 $C(x_1, y_1, z_1)$ と平面「 $\pi: ax+by+cz+d=0$ 」との距離を求めるのは簡単です。

C を通り、 π に平行な平面の式は、

$$ax+by+cz+d = ax_1+by_1+cz_1+d \dots \textcircled{1}$$

ゆえに(*)から、

点 (x_1, y_1, z_1) と平面 $ax+by+cz+d=0$ との距離を h とすると、

$$h = \frac{|d_1 - d_2|}{|\vec{n}|} = \frac{|(ax_1+by_1+cz_1+d) - 0|}{|\vec{n}|} = \frac{|ax_1+by_1+cz_1+d|}{\sqrt{a^2+b^2+c^2}} \dots (**)$$

これが「点と平面との距離の公式」です。個人的には(*)の方が、意味が明確で良いと思います。

公式の分子の「 $ax_1+by_1+cz_1+d$ 」は、①の右辺の値を、分母は法線ベクトルの長さを表しています。

【注】 (*)や(**)の公式は入試ではそのまま使えないことが多いと思います。証明しながら使いましょう。次節の例題を参照してください。

5-4. Cabri3D による検証

互いに平行な2平面「 $ax + by + cz = d_1$ 」と「 $ax + by + cz = d_2$ 」との距離は,

$$h = \frac{|d_1 - d_2|}{|\vec{n}|} \dots (*)$$

を Cabri3D で確かめましょう. 法線ベクトルは「 $\vec{n} = (1, 2, 3)$ 」で固定です. 点 A, B を動かしてみてください. A や B の (x, y, z) 成分を使って「 $x + 2y + 3z$ 」の値(d_1 と d_2)を計算してみてください. HG の長さを電卓で計算してみて, 上の公式の結果と一致することを確認してみてください.

[distance between 2 planes.html](#)

点を上下に移動するには「Shift キー」を押したままで Drag します. 「Shift キー」を押さないとベースの平面と平行に動くだけです. また視点を変えるには, マウスの右ボタンを押したままで「ぐりぐり」します.